

令和 6 年度

『地域版信州学び円卓会議』

2025.1.22

～地域と共に創る持続可能な学校のあり方～

《みんなで学校を創ろう！》

雪の降る里
むらぬわし



長野県 栄村教育委員会
下 育郎

今週の当村の様子





- ・長野県最北端
- ・県境の地(新潟県と隣接)



人口1565名 65才以上の高齢化率55%

平成23(2011)年3月12日

東日本大震災の翌日未明に起きた長野県北部地震(マグニチュード6.7)最大震度6強

震災以降 人口減少が著しい栄村



栄村の

2010年⇒2024年の14年間の児童・生徒数の変化

145人



65人

減少率 県内 77市町村中 2位
14年間で -55%

村内の教育施設

数々の統廃合を経て今の姿に

北信保育園 25名



栄小学校 48名



栄中学校 17名



栄小学校秋山分校

休校中
R2年度より



合計90名
(小中学生は65名)

高校進学のため

義務教育9か年を過ぎると必ず村を出て行く子どもたち
優秀な人材を育て、都市部に送るだけでなく



優秀な人材を育て、いつの日か
ふるさとに帰ってくる教育を

※「村を捨てる学力」 から
「村を受け継ぐ学力」 への変換が必要

そこで重要となるのが

『ふるさと観』の育成

「ふるさと観」
とは？

- ・生涯にわたり、自分の根幹をなすもの
- ・生きていく上での自信、希望、心の支え、勇気
- ・いつかは帰りたいと思える場所…

それまでは、そこで頑張ろう。故郷に錦を飾るまでは…

(♪ふるさと♪ 3 番歌詞 中野市出身高野辰之作詞

「志を果たして、いつの日にか帰らん〜」)

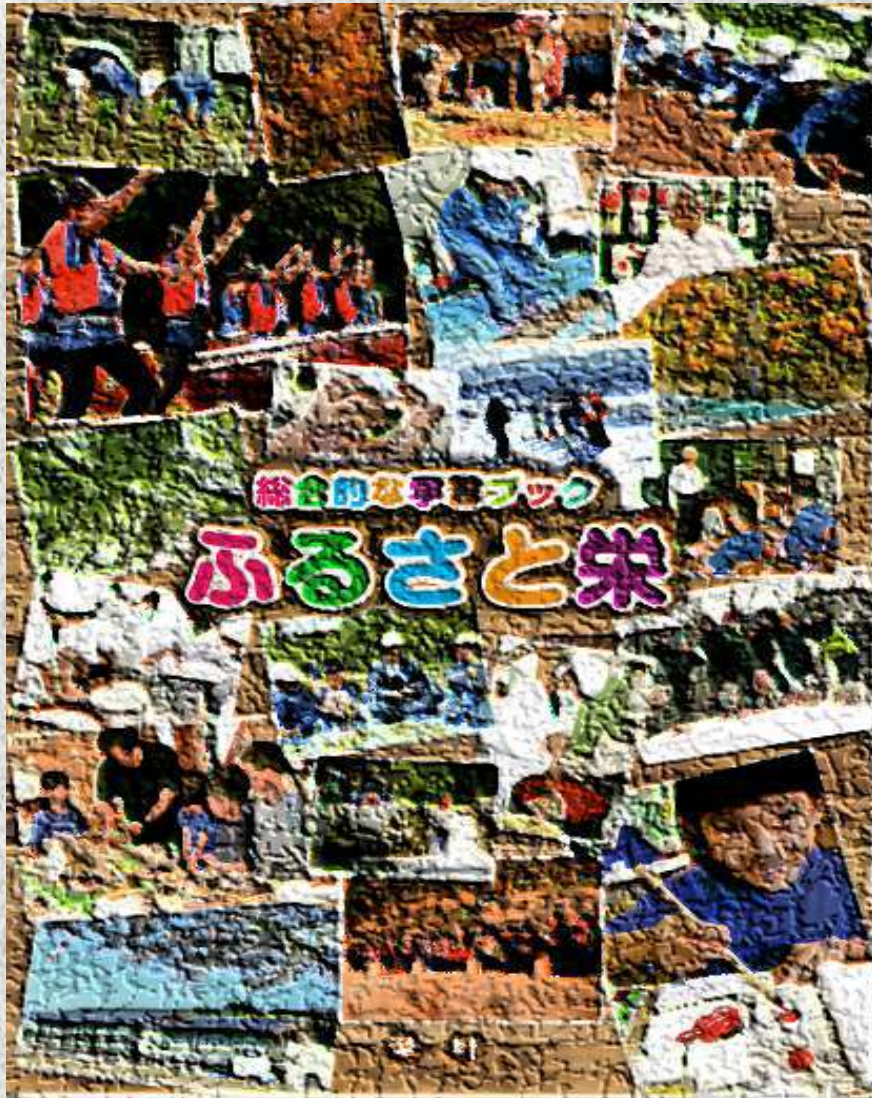


村を受け
継ぐ学力

人・もの・ことに深く触れる体験を通した

「ふるさと学習」の必要性

総合的な学習ブック「ふるさと栄」作成（小中教員で） 令和元年発行



栄村のそば

1 栄村のそば

栄村のそばは、越前地方の富嶺そばのつなぎに使われている『ヤマゴボウ』と新潟県魚沼市発祥のへぎそばのつなぎに使われている『布海苔（ふのり）』の2つのつなぎを使います。ヤマゴボウのコシとふのりの香りを合わせもつ、長野県内でもめずらしいそばです。

(1) ヤマゴボウ

ヤマゴボウの茎や葉の繊維を取り出して乾燥させた物です。つなぎに使うと、ツルツルとして歯ごたえのあるそばになります。ヤマゴボウは作るのに手間と時間がかかるため作り手がへり、手に入れるのがわずかになっています。



(2) ふのり（布海苔）

2月から4月にかけて採取できる海藻です。寒いときのものほど風味がよいと言われています。つなぎに使うとコシのあるそばになります。元々は織物の仕上げに使うのりとして使われていたため、「布織（ふのり）」とよばれていました。



2 そばの花と実



【6月下旬には白い花が咲く】



【9月中旬には収穫の時期を迎える】

3 栄小学校のそば打ち

栄小学校では、以前は全校行事としてそば打ちが行われていましたが、今では主に3・4年生の総合的な学習の1つとしてそばづくりとそば打ちが行われています。

そばづくりは、横倉の老人会「睦会」のみなさんに教えていただいています。そばの種まきやそば打ちの仕方をていねいに教えていただき、合間には一緒に歌を歌ったり肩もみをしたりして、交流を深めています。



【睦会の方々と休めい】

《栄小学校でのそば打ちのようす》



【こねる】



【のばす】



【切る】

廣瀬一治さん（横倉老人クラブ「睦会」）の話



栄村のそばの特徴は、食べたときに歯ごたえがあって、のどごしが良いところにあります。ヤマゴボウとふのりをつなぎに使うのは栄村だけです。

ヤマゴボウを栽培するのが大変で、近年作るのをやめてしまう方が多いです。そうすると栄村のそばは、いずれなくなってしまうのではと不安を感じています。子どもたちには、そばには欠かせないヤマゴボウをこれからも残し続けていってほしいです。

村民の顔や具体的な活動・体験がイメージできる冊子に（活動紹介ではない）

教育長就任時、自分に問いかけたこと

- ◆この村で、どのような子どもを育てたいのか？
- ◆この村で、どのような教育をしたいのか？
- ◆この村における教育の役割とは？

地震の影響

└─▶ 児童・生徒数の減少

└─▶ 校舎等施設の老朽化

└─▶ 学校予算の削減

学校統合は、子どもの人数や
予算の問題？
何より大切なのは、
「教育の理念」や
「この村で願う教育の姿」
では？

↓
学校統合??



“人数が少なくなったから” というネガティブ
な考え方ではなく、

「この村でしかできない教育」

「この村だからこそできる教育」 が

きっとあるはず！！

この村らしさ（特徴）を生かした
取り組みを行いたい。





**栄村の教育は、
栄村に生まれ・育った子に対して、
栄村で行われている（現状）**

そうであれば、この村らしさを生かした教育とは？

栄村らしい教育をしたい！

（ここを村民と話し合い、共通理解をし、今後に生かしたい）

栄村ではどんな子を育てたいの？

栄村で必要とされる教育とは？

栄村だからこそできる教育とは？

「学校」 （子どもの未来） を考えること

「村」 （村の未来） を考えること

↓
『みんなで学校を創ろう！』

～村民主体で話し合い、学校や村の未来を考え・創っていく場～

【基本はワークショップ形式】

2022年6月スタート → 2024年11月までに22回実施
延べ636名が参加（村民の約4割に相当）

小回りが利く小さな村の良さを最大限に生かして

『みんなで学校を創ろう！』

を展開しようとしたいきさつ

- 行政が説明したり、住民に納得してもらったり
するような会にはしたくない。(行政主導でなく)
- 特別な組織は作りたくない(みんなで決める)
- 一部の住民で決めたくない(誰もが自由に参加)
- この村らしい進め方をしたい
(小規模・顔見知り・話しやすさといった良さを生かす)

『教育委員会が決めない』

村民主体での話し合い

『みんなで学校を創ろう!』

の中で進め・決めていく



もう一点

なぜ住民参加型なのか？

教師は異動するが、住民は残る

(学校や先生方任せでは、新校設立の理念がそのうち廃れていく。
住民が新たに村に来た先生方にも伝えていけば、設立当初の思い
はつなげられるはず…。)



村民が学校教育に積極的に参加すれば、この村で
願う教育を村民自らが確認・伝達・修正でき、持続
可能な教育が具現化するのでは？

(公立校の性を打破する方策として、住民主体で教育を推進していく)

「みんなで学校を創ろう!」

「経過」 & 「決定事項」



『みんなで学校を創ろう!』

～2年半のワークショップの流れ～

1 学校創りの「柱」(コンセプト)を決めよう!(1～3回)

◆村民が望む学校像とは…

学校統合は、この村が願う教育をするためであり、児童・生徒数減少が最大の理由ではない。

- ①話し合いの初期は、「**行動目標**」的な内容が多く語られ、「**この村らしい教育**」や「**新しい教育**」にはつながらず、この村らしさが出てこない。
- ②しだいに、**思い、考え、関わり、芯、創る、自学、共育等**に寄せた言葉が大半を占めるように⇒「**学校の柱**」が決定
- ③望む学校になるための「**授業像**」とは？
- ④具体的な授業の姿とは



【思い】

良さ・自然・ふるさと・栄村から来たと言える・生きる力・自信の源・環境

【芯】

生き抜く・ぶれない自分・自信・目標・夢・強い心・夢中・わくわく・願い・志

【創る】

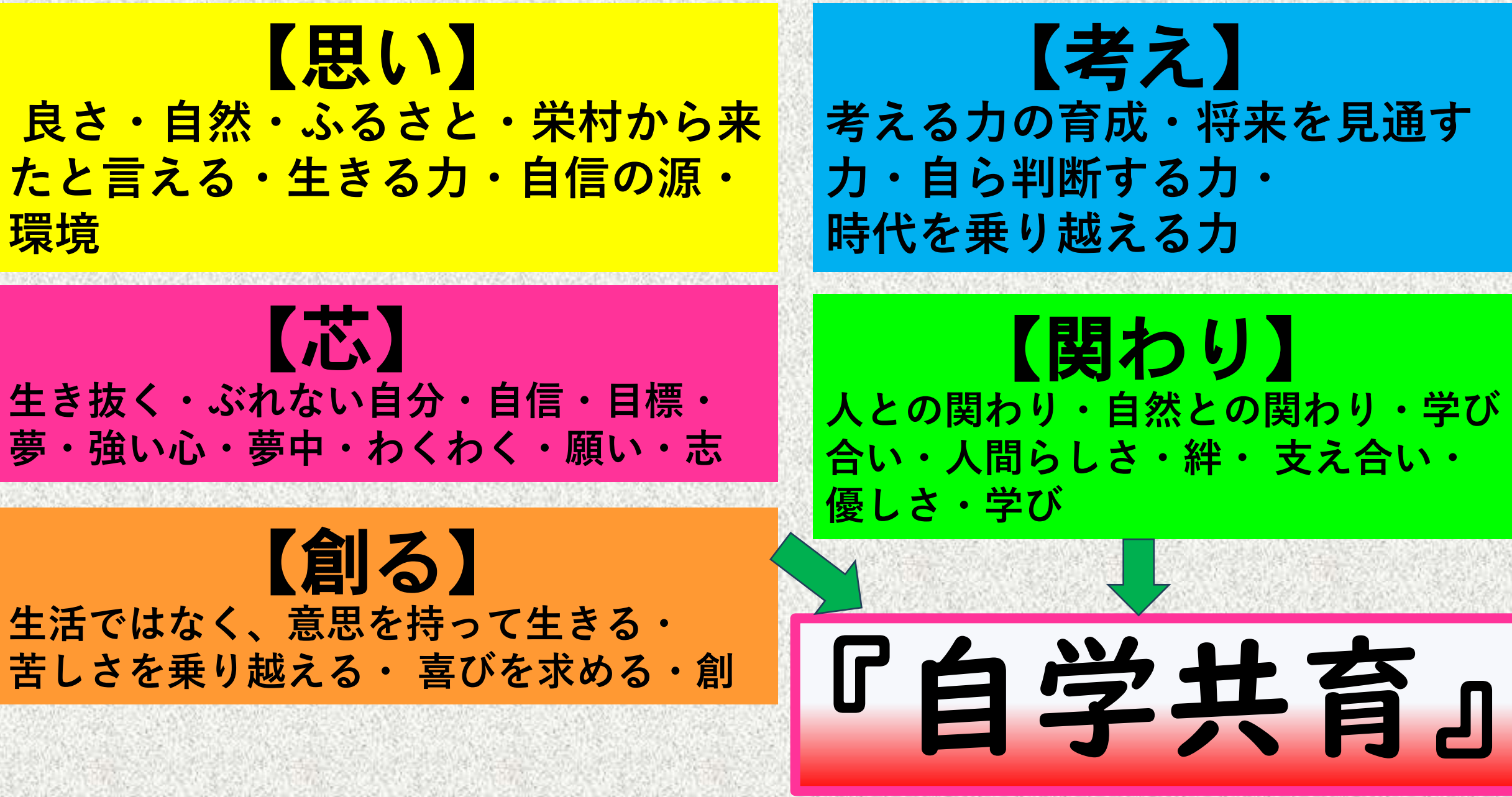
生活ではなく、意思を持って生きる・苦しさを乗り越える・喜びを求める・創

【考え】

考える力の育成・将来を見通す力・自ら判断する力・時代を乗り越える力

【関わり】

人との関わり・自然との関わり・学び合い・人間らしさ・絆・支え合い・優しさ・学び



『自学共育』

を柱にした教育を当村で行いたい！

◆「自学共育」を目指すための望む『授業像』

- ①探究的な学び ②異年齢集団の学び ③自由進度学習
- ④小中連携 ⑤個別最適な学び ⑥課題解決学習
- ⑦ふるさと学習 ⑧学びの多様性 ⑨グローバル的思考
- ⑩協働的な学び ⑪基礎基本の定着 ⑫共育・共学
- ⑬自己有用感の育成 ⑭新たな教育観・授業観

◆具体的な授業の姿

- 一律・一斉がない ○揃えない
- 教え込まない ○効率化しない
- 「～でなければならない」が無い授業
- その子なりの歩みと育ち、そして学びを大切にする



2 学校形態について考えよう！（4回～9回）

◆望む教育ができる学校形態は？



- 義務教育学校か、小中一貫校か
- 村民の希望者で**県内4校の視察**（小中一貫校・義務教育学校／施設一体型・分離型／公立・私立）【開始2年目に予算付け】
- 元義務教育学校校長先生からの講演等



施設一体型 義務教育学校の希望

3 学校の設計について考えよう！（10～16回）

◆設計に村民も参加（10～16回）

- ①プロポーザル方式採用による設計業者選定
（入札ではなく、住民評価で設計業者を決定）
- ②業者を交えたWS形式での「望む校舎増改修工事」
の推進
- ③模型をもとにした意見交換
- ④設計会社と村教委職員で東京・群馬・県内施設視察

↓
基本設計・実施設計へ



4 学校のソフト面について考えよう！ (17~21回)

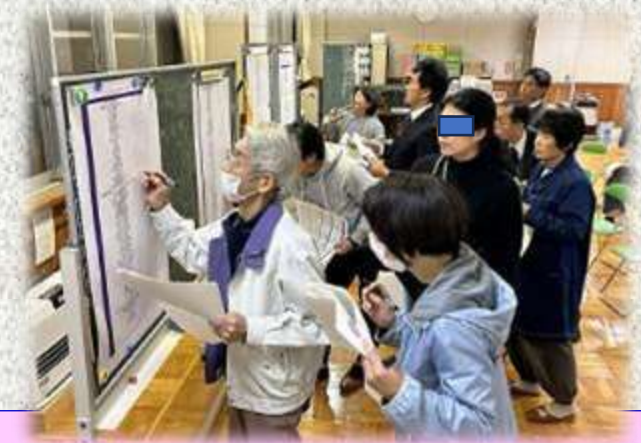
◆学校のあたりまえを見直そう（子どもの日常生活）

- ①学校目標、教育目標 → 学校の柱「自学共育」で統一（目標なし）
- ②制服・運動着・帽子・かばん・上履き・校歌・校章・行事・カリキュラム・頭髪染色・ピアス・きまり等
- ③「揃えない・一律一斉がない」を授業で望むので、学校生活全てその方向で一致させていきたい
- ④細かな部分や専門的な部分は、子どもと先生方と相談し決めてもらう…状況により見直しも可とし、柔軟に対応していく。



揃えない・一斉一律がない・子どもたちが決めていく を基本に

5 今後の見通し (22回～)



◆**学校名 (22回)** …公募で募集し 2 6 0 点の応募から 5 点に絞り込み。
1 月 1 5 日締め切りの村民投票と小中学生の投票全 1 8 2 投票により

「栄村立さかえ小中学校」 に決定
(182票中 96票を獲得)

◆**校 章**…学校名が決まったので、村民からの公募と、
若い感覚で長野市岡学園の学生に依頼予定
⇒「みんなで学校を創ろう！」で絞り、村民投票

2 2 回までの間にも…

- ①村全戸配布の「学校統合だより」5回発行
- ②住民説明会（1回）と保護者説明会（2回）
- ③児童・生徒や保護者へのアンケート
- ④児童・生徒と教育長との意見交換懇談会
- ⑤議会全員協議会での説明
- ⑥パブリックコメントの募集



住民主体で進めて（決めて）きた内容

- ① これから村が求める児童・生徒像とは
- ② 願う学校像とは（基本スタンス・スローガン）
- ③ 望む授業像とは（14の授業像）
- ④ 望む学校形態とは（義務教育学校）
- ⑤ 増改修工事の設計業者選定
（プロポーザル方式を採用しプレゼンで参加者の評価で決定）
- ⑥ 設計・設計業者との打合せ（計7回）
- ⑦ 学校の柱（学校目標・学校教育目標は無し）（自学共育）
- ⑧ 子どもたちの日常生活について
（制服・運動着・帽子・かばん・上履き・校歌等）
- ⑨ 今後の流れ（校章）
校内のきまりは子どもたちが今後決めていく



①栄村が今うねりを立てて変わろうとしている。皆さんの発言から伝わってくる、うれしいです。

②自分と異なる意見を聴くことはすごく勉強になる。子どもたちもそうなんだなと思う。



10才～80才代の参加



様々な意見を聴けて大変勉強になりました。このように住民が意見を出し合い合意形成できることは、とてもいい機会だと思います。

これだけの時間をかけて話し合う熱意と、子ども達への思いをひしひしと感じました。この会に出る都度、子ども達との関わり方を見直しています。





◆保小中の先生方も毎回多数参加↓授業改善へ

◆村民同士で語り合う場がほしかった

◆村の教育や村の未来・夢を語る村民

◆毎回楽しみに参加してくださる村民



すでに学校にも変化が



- ◆授業改善
- ◆教室改造
- ◆授業への
住民参加
- ◆隣接県からの
通学



地域と共にある学校を目指して

- ①授業改善⇒村民の願いを生かした授業、先生方の意識の変化、各教育委員評価の劇的向上
- ②地域連携⇒村民と共に「みんなで学ぼう」「みんなで遊ぼう」の実施
「みんなで学校を創ろう！」参加者の学校活動への関わり
ふるさと学習での関わり、地域行事への参加
- ③校舎活用⇒「地域連携室」(カフェスペースの創設)、保護者・未就学児の保護者・高齢者等交流の場、中間教室併用、調理室、図工・美術室の平日・土日含めた一般開放
- ④ふるさと学習⇒村の存続をかけた郷土学習、郷土愛の育成、具体的な体験を通し、「人・もの・こと」に深く関われる場

「みんなで学校を創ろう！」を2年半ほど実施してみても

- ◆地域の教育は地元の教育委員会がつくり、提案していくだけではない時代に。(地元との合意形成が何より重要)
- ◆地域住民の思いや願いが生かされていかなければその地域にとっての教育の意味や“らしさ”(特色)のある教育は成立しない。
- ◆地教委は説得したり、納得してもらったりする立場以上に、コーディネーターやファシリテーターとしての役割が今後益々重要となってくる。

私たちが展開してきた『みんなで学校を創ろう!』の“みんな”には、今まで教育委員会がすべてを計画・決定・推進してきた流れから、教育を推進すべき主体が「官から民」というように住民意識が変化してきている流れを大切にしたい、という当村教育行政の願いが込められている。



村で働く教師が、話し合いにおいて村教委に
“ものが言える” 関係を築けてきたことも重要⇒「栄村の教育の一端は自分が担っているんだ！と実感している」との声も。

統合学校建物のイメージ



令和8年4月に「義務教育学校」として開校予定だが、この校舎に入れるのは夏以降となる。



2F～3Fの大階段と滑り台

広く開放的なスペース。図書館機能と共に、各自の学習スペースとしても活用。大階段の横には滑り台も設置。

1F地域連携室

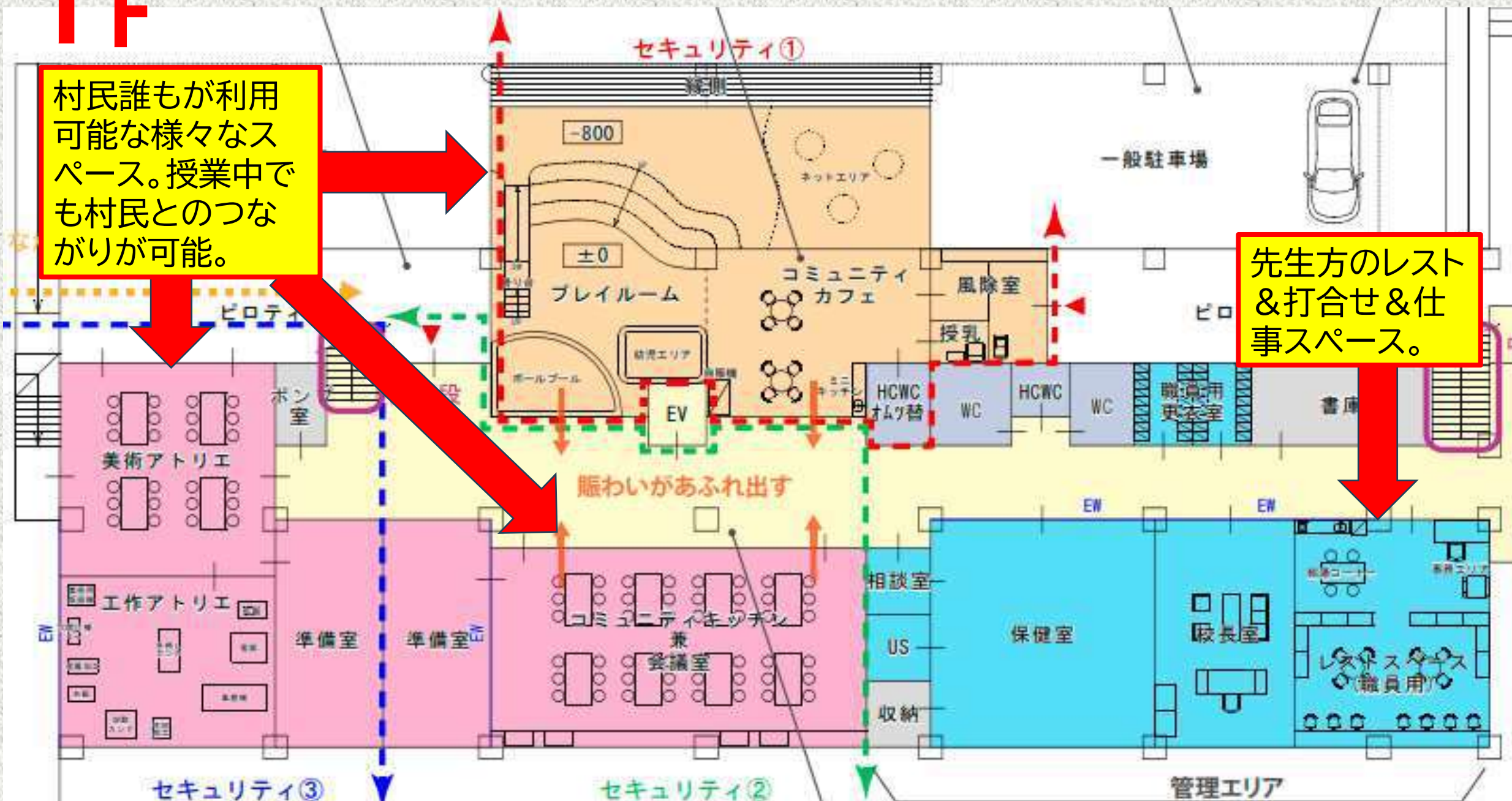


平日休日、昼夜問わず、村民誰もが利用可能な地域連携スペース。未就学児がいる子育て中の保護者の情報交換の場や中間教室としての活用、各種イベントや会議などにも活用が期待。冬期をイメージし屋内巨大遊具も設置予定。

1F

村民誰もが利用可能な様々なスペース。授業中でも村民とのつながりが可能。

先生方のレスト
& 打合せ & 仕事スペース。



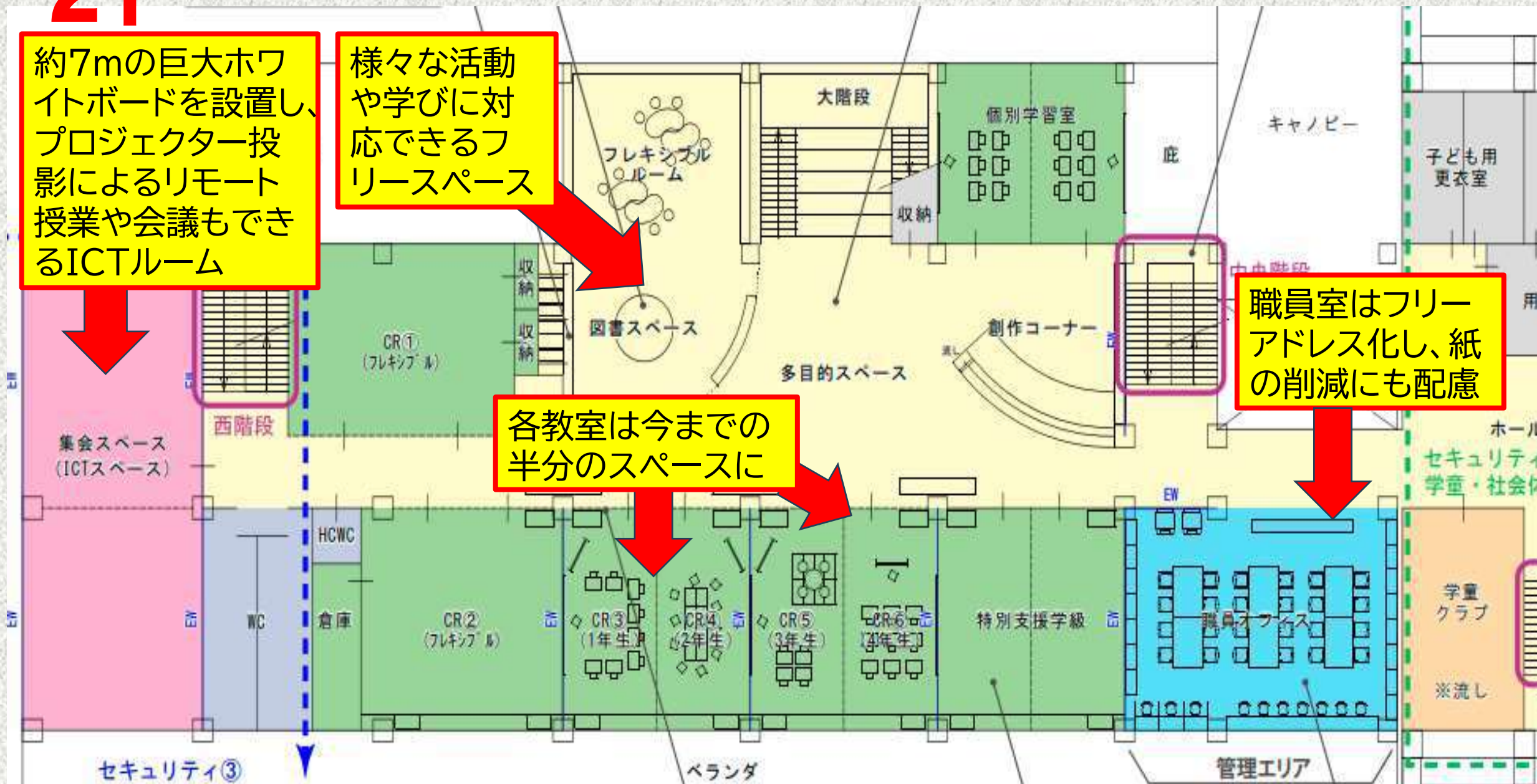
2F

約7mの巨大ホワイトボードを設置し、プロジェクター投影によるリモート授業や会議もできるICTルーム

様々な活動や学びに対応できるフリースペース

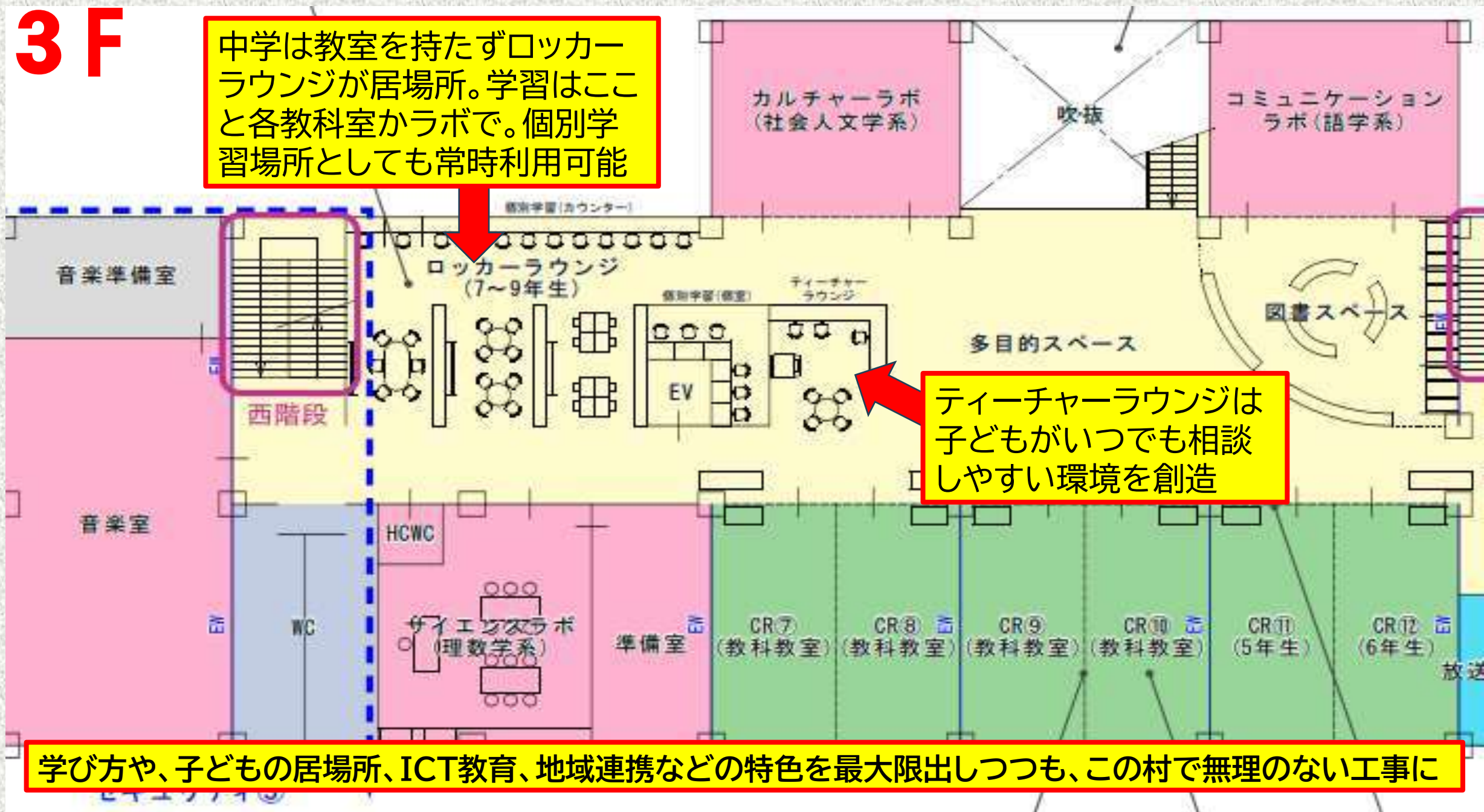
各教室はこれまでの半分のスペースに

職員室はフリーアドレス化し、紙の削減にも配慮



3 F

中学は教室を持たずロッカーラウンジが居場所。学習はここと各教科室からラボで。個別学習場所としても常時利用可能



ティーチャーラウンジは子どもがいつでも相談しやすい環境を創造

学び方や、子どもの居場所、ICT教育、地域連携などの特色を最大限出しつつも、この村で無理のない工事に

こんなことも赴任された先生方にはお伝えしています。

○栄村でできない教育は、
他でも多分できない！

○栄村でやらない人は、
他でもやらない！

自分でやる...
自分でやる...



～ご清聴ありがとうございました～